

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		11 07 02	中期総合計画主要施策番号		2-06,5-07,5-09		担当課	部・課	建設部都市計画課		
事業名		県単街路事業 (県単【都市計画】)				内線		3360			
						E-mail		toshikei@pref.nagano.jp			
事業の概要等	事業の目的	機能的な都市活動と誰もが暮らしやすい快適な都市環境を創出するため、安全で円滑な都市内交通の確保、魅力的で活力あるまちなか空間の創出を目的とした都市計画道路の整備を行う。									
	事業の必要性	[現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)] 都市計画道路の整備率は41.1%にとどまり、市街地への通過交通の流入や危険な踏切等により安全で円滑な都市内交通に支障をきたしている。また、歩道と車道の分離がされていない道路では、歩行者の安全が脅かされている。 [原因分析(ギャップが発生している原因は何か)] モータリゼーションの進展に伴う過度に自動車に依存した拡散型の都市構造になっており、交通需要に対して整備が追いついていない。 [課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)] 環状・放射道路ネットワークの構築、危険な踏切の解消をはじめとする安全確保、ゆとりある歩行者空間の構築とまちなか再生を図る必要がある。									
		事業内容	国庫補助の採択対象とならない小規模な箇所や、他事業に関連して緊急的に行う都市計画道路整備等								
		実施期間	S43 ~	根拠法令等	都市計画法第59条2項、道路法第56条ほか						
	成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価		
都市計画道路の整備を行い、誰もが暮らしやすい都市環境の創出を図る。(H24 用途地域内都市計画道路整備率を43.5%とする。)		平成24年度の目標達成に向けて用途地域内の都市計画道路の整備率を41.9%まで増加させる。			用途地域内の都市計画道路の整備率は42.6%で目標を上回り、整備が順調に進んでいる。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下				
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要				
	最終予算額 (A)		千円	1,222,234	748,370	612,700	国庫・県単 県単				
	決 算 額 (B)		千円	1,307,029	962,772		実施方法 直接				
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	214,181	116,427	162,395	歳出節別内訳等				
	概 算 人件費	従事する職員数	人	23.00	16.00	12.00	予算現額(最終予算額+繰越額等) 1,224,241				
	概算事業費 (B(H21はA)+C)		千円	1,307,029	962,774	612,700	(単位: 千円) 1箇所当たり平均工事期間 6.5年				
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績				
	事業実施箇所数		箇所	13	10	5	20年度完了箇所 6箇所				
	整備延長		m	747	860	265					
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明								
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	・道路法により県管理道路の整備は県が行うこととされている。 ・引き続き、既存のストックを有効活用する都市計画道路網に見直しするとともに事業の重点化を図り、効果の早期発現を図ることで有効性を高める必要がある。				
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり						
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり						
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり						
	課題の総括		・長野県の都市計画道路の整備率は、全国でも最も立ち遅れた状況にあり未整備路線が多いため(長野県整備率: 41.1%、全国平均整備率61.3%)、既存のストックを有効活用する都市計画道路網に見直しするとともに、「選択と集中」により、重要度、優先度の高い路線を選択し、効果的な整備を引き続き行う。 ・街路事業の実施にあたっては、引き続きコスト縮減等効率性を高め、事業効果の早期発現を図る必要がある。								